

文部科学省シンボルマーク

表紙下部に掲載している文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し、その使命を見失うことなく、誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は、社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に、親しみやすい簡潔なデザインからは、人、地球など、様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として、「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志、品格と知性、「空色」は誠意と未来への広がりという意味しています。

このシンボルマークは、国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として、平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は、このマークに込められた意味を忘れることなく、任務に取り組んでまいります。



- 写真① 研究に取り組む若手研究者①（広島大学）
- 写真② 個別最適な学びを実践している様子（岐阜県下呂市立萩原小学校）
- 写真③ 協働的な学びを実践している様子（富山県南砺市立上平小学校・井口小学校）
- 写真④ パーテーションを用いるなどの工夫を講じた上で授業を実施している様子（龍谷大学）
- 写真⑤ 研究に取り組む若手研究者②（山口大学）